

(7)出資等エクスポージャーに関する事項

①連結貸借対照表計上額および時価

(単位:百万円)

	2015年末		2016年度末	
	連結貸借対照表計上額	時価	連結貸借対照表計上額	時価
上場株式等	-	-	10	10
非上場株式等	49	49	49	-
その他	7,700	-	7,700	-
合計	7,749	49	7,760	10

注)1.貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいて算定しています。
2.「その他」の区分には、労働金庫連合会出資金等を計上しています。

②出資等エクスポージャーの売却および償却に伴う損益の額

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度
売却益	21	2
売却損	-	2
償却	-	-

③連結貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度
評価損益	-	0

④連結貸借対照表および損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度
評価損益	-	-

出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針および手続きの概要

子会社株式および関連会社株式については、有価証券に占める割合がごくわずかであり、リスクは限定されています。

「その他有価証券」については、「有価証券運用方針」で対象商品、購入枠等を設定しています。方針については、資金運用委員会で協議し、承認を受けています。期中の運用状況についても定期的に常務会および理事会に報告しています。

また、時価および適格格付機関の格付等を定期的に取得することにより、リスクの把握に努めています。

会計処理については、当金庫の「時価会計取扱要綱」および日本公認会計士協会の「金融商品会計の実務指針」に基づき、適切に処理するよう努めています。

(8)金利リスクに関する事項

金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益または経済的価値の増減額(金利リスク量)

(単位:百万円)

運用勘定	金利リスク量		調達勘定	金利リスク量	
	2015年度末	2016年度末		2015年度末	2016年度末
貸出金	4,086	6,790	定期性預金	△499	△1,922
有価証券	174	450	流動性預金	△1,971	△2,270
預け金	760	1,686	その他	0	0
その他	0	0			
運用計 (A)	5,021	8,927	調達計 (B)	△2,470	△4,192
金融派生商品 (金利受取サイト) (C)	△169	0	金融派生商品 (金利支払サイト) (D)	△2	0
金利リスク量計 (A)+(B)+(C)+(D) (E)	2,379	4,734			
アウトライヤー比率 (E)/自己資本	4.54%	8.94%			

金利リスク量が自己資本の額の20%を超える銀行(アウトライヤー銀行という)の自己資本の適切性について、監督当局は特に注意を払うこととされていますが、当金庫はアウトライヤー銀行に該当しません。

金利リスクに関するリスク管理の方針および手続きの概要

「統合的リスク管理規程」に基づき、定期的にBPV(ベース・ポイント・バリュー)およびVaR(バリュー・アット・リスク)を計測することにより、金利リスクを把握しています。

計測結果および今後の対応について、定期的にリスク管理委員会で協議しています。また、常務会および理事会に対しても定期的に報告しています。

連結グループが内部管理上使用した金利リスクの算定手法の概要

1.当金庫では、GPS(グリッド・ポイント・センシティブリティ)方式により金利リスク量(BPV)を算定しています。GPS(グリッド・ポイント・センシティブリティ)とは、期間(グリッド)ごとの金利変動(※)に対する資産・負債・オフバランス取引の現在価値の変化額のことで、

※当金庫では、金利変動幅として、保有期間1年、観測期間5年で計測される金利変動の1パーセントイル値と99パーセントイル値を採用しています。

なお、「パーセントイル値」の算定方法は以下のとおりです。

(1)期間ごとの市場金利について、1年前の営業日との金利差を5年分、延べ1,200営業日分のデータとして集めます。

(2)集めたデータを値の小さい順に並び替えます。

(3)並び替えたデータのうち、小さい方から1%目(12番目)の数値を1パーセントイル値、99%目(1,188番目)の数値を99パーセントイル値として採用します。

2.貸出金の金利リスク量算定にあたり、期限前返済は考慮していません。

3.要求払預金の金利リスク量(BPV)は、コア預金(※)の満期を内部モデルにより算定しています。

※コア預金とは、明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される要求払預金のうち、引出されることなく長期間金融機関に滞留する預金のことで、

4.四半期ごとに金利リスク量(BPV)を計測しています。

(9)オペレーショナル・リスクに関する事項

オペレーショナル・リスクに関するリスク管理の方針および手続きの概要

当連結グループでは、オペレーショナル・リスクを①事務リスク②システムリスク③リーガルリスク④その他リスク(人的リスク、有形資産リスク、風評リスクなど)に区分し、管理しています。

オペレーショナル・リスク管理の基本方針として、年度ごとに策定する統合的リスク管理方針のなかで上記①～④の各リスクの管理方針等を定めています。

また、具体的な管理体制・手続き等の基本事項を定めた「統合的リスク管理規程」を制定しています。

オペレーショナル・リスクの管理にあたっては、統括部署であるリスク統括部がオペレーショナル・リスク全体を管理し、各リスクの管理部署がそれぞれのリスクを管理しています。

管理状況および今後の対応については、定期的にリスク管理委員会で協議しています。また、常務会および理事会に対する報告事項を設定し、定期的に報告しています。

オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当連結グループは、基礎的手法によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しています。

● 連結セグメント情報

連結の対象となる株式会社中国労働金庫ビジネスサービスは、印刷物の受託業務・当金庫の給与計算等の事業を営んでいますが、それらの事業の種類ごとの区分に属する経常収益、経常利益または経常損失の額および資産の額(以下「経常収益等」といいます)の、経常収益等の総額に占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載していません。